

## <受講者の皆様へ>

### 令和7年度 サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者 基礎研修 事前課題について

演習では、事例「水道橋さん」を基に、ニーズ整理、個別支援計画の作成、サービス評価、モニタリングなどの演習を通じて、サービス提供プロセス管理の方法について学びます。

**！ご注意ください！** 「事前課題①～③」の全てが提出されない場合、演習の受講ができません。演習に受講できない場合、修了証の発行ができません。

#### I. 事前課題(①～③)の内容と手順

1. 事例「水道橋さん」に関する情報（「01 事例の概要」「02 アセスメントシート」「03 学齢期の情報」）等事前課題の事例詳細資料を熟読し、受講者自身で事例のアセスメントを行います。  
※講義動画の視聴前でも取り組める内容です。

##### ＜事前課題①-1＞“本人を知るための地図”(A4 横)

##### ＜事前課題①-2＞事例(水道橋 久さん)の100文字アセスメント(A4 横)

課題内容：事例「水道橋さん」のアセスメントを整理し、**事前課題①-1、①-2**に記入します。

演習では、事前課題①-1、①-2を使用し、各ロールプレイ、ニーズ整理、個別支援計画作成の演習を行います。

2. サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者のサービス提供プロセスを振り返ります。  
※講義動画の視聴後に取り組んでください。講義の内容になりますので、空欄での提出は認められません。

##### ＜事前課題②＞サービス提供のプロセス(A4 横)

課題内容：講義動画の「【講義3】サービス等利用計画等と個別支援計画の関係」や「【講義5】個別支援計画作成のポイントと手順」の講義資料を復習し、**事前課題②の空欄①～⑦**を記入します。

3. サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の視点を振り返ります。  
※講義動画の視聴後に取り組んでください。講義の内容になりますので、空欄での提出は認められません。

##### ＜事前課題③＞サービス管理責任者の視点(A4 縦)

課題内容：講義動画の「【講義5】個別支援計画作成のポイントと手順」の講義資料を復習し、  
**事前課題③**を記入します。

#### II. 事前課題の持参・提出

事前課題の持参・提出については各運営団体の指示に従って提出してください。

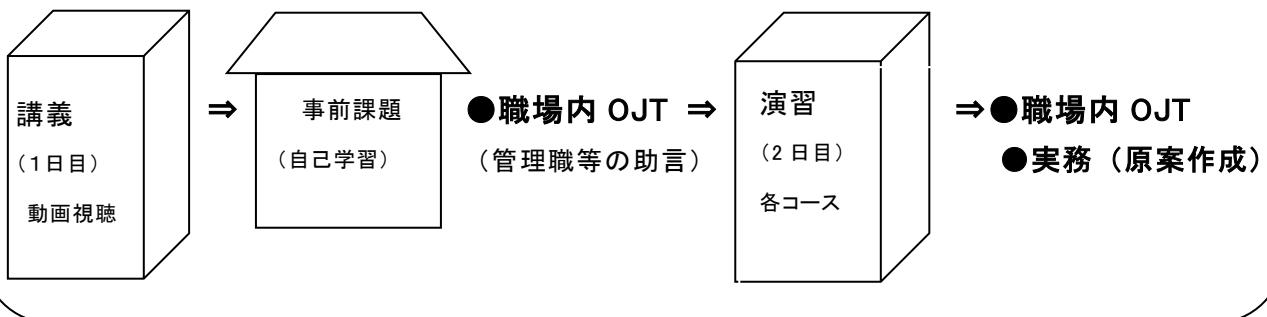
## <管理職等の皆様へ>

### 令和7年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修「基礎研修」の事前課題について

#### (受講生への支援)

- 「基礎研修」は、事前課題（自己学習）と職場外研修（講義動画の視聴・収集による演習）がセットになったプログラムとなっています。そのため、管理職等の皆様におかれましては、受講者の方が職場において研修に臨んでいただく際の助言等の支援（OJT）につきまして、ご配慮いただきますようお願いいたします。
- 「基礎研修課程」修了後に、「実践研修」を受講するためには、2年以上の実務経験が必要です。この2年間の実務経験では、職場でのOJTを進めていくことが重要となります。
- 「基礎研修課程」修了後のOJTを見据えて、本研修の事前課題①-1「本人を知るための地図」①-2「事例（水道橋 久さん）の100文字アセスメント」を取り組む段階から、職場内において受講生へのOJTをお願いいたします。

#### <研修プログラム>



#### <事前課題の内容>

- 1 事例「水道橋さん」に関する情報を熟読し、アセスメントを行う。

　　<事前課題①-1>本人を知るための地図

　　<事前課題①-2>事例（水道橋 久さん）の100文字アセスメント

- 2 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者のサービス提供プロセスを振り返ります。

　　<事前課題②>サービス提供のプロセス

- 3 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の視点を振り返ります。

　　<事前課題③>サービス管理責任者の視点

## 01 事例の概要

この事例の登場人物、施設名等の名称はすべて仮称です。

利用者 水道橋 久さん

記入者 支援センターひまわり 相談支援専門員 六本木はやと

事例タイトル	父親と弟との暮らしに困難になり、グループホームと就労を利用しながら地域で生活することを希望している事例。
相談経過の要約	<p>久さんはA市で2人兄弟の長男として出生。発語や歩行が少し遅かったが、3歳児健診などでは特に保健師の指摘事項はなかった。小学校1~2年生の時は普通学級に通っていたが、授業中に落ち着きが無く、席を立って教室内を歩き回り、突然怒りだし、友達に手をあげてしまうことがあった。</p> <p>小学校3年生からは、特別支援学級（情緒級）に移った。小学校6年生の秋には周囲との学力の差や学習環境への馴染めなさ等から、児童相談所で療育手帳の判定を受け、軽度の遅れが認められた。</p> <p>中学は地域の中学校の特別支援学級に進んだ。中学校での生活は、太鼓部に所属し部活動では楽しく過ごしていた。太鼓部の顧問は、久さんのできるところは積極的にほめて、苦手なところは根気良く教えてくれた。また、昆虫も大好きで、図鑑を見たりしている時は周りの声が聞こえないほど集中していた。同じクラスに昆虫好きの友達がいた。父親が大工だったこともあり、久さんも木工に興味をもって犬小屋を作った。</p> <p>久さんが中学2年生の秋に両親が離婚。母親が統合失調症で自分のことで精一杯で家族の面倒をみられなくなり家を飛び出しました。以後、父親と弟の3人暮らしとなつた。その後、久さんは母親と1年に1~2回は会っている。離婚後、父親は家のことを何とかこなしていたが、徐々に家の中が乱雑になり、久さんも学校を休みがちになつた。</p> <p>両親が離婚し母がいなくなったことで、兄弟ともに放課後の過ごし方が課題となつた。父親が市に相談したが、相談支援事業所がみつけられず、セルフプランで中2の冬から放課後等デイサービスの利用を開始。5歳下の弟（小3）も児童クラブの利用を開始した。久さんは放課後デイを平日週3日と、土曜日も月2回程度利用していた。事業所は決まったプログラムはなく自由に過ごせるところで、そこでは気の合う友達もでき、公園で虫探しをしたり、昆虫図鑑を見ながら友達やスタッフと会話したりするのが楽しみだった。相性の悪い友達とはトラブルもあったが、人のやり取りを学べた。中学卒業後は特別支援学校の高等部へ進学。高等部を卒業するまで放課後デイの利用は継続していた。</p> <p>久さんは特別支援学校の高等部を卒業し、製造部品を作る工場に就職。面倒見の良い上司がいて久さんも素直に対応した。上司がわかるまで丁寧に教えてくれて、ときに叱咤激励してくれたことで、安心して働いていた。しかし、1年後に上司が変わり、その上司が他の職員の対応に追われて、久さんにあまり気を配らなくなつた。それから半年後に、久さんは「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」などの不安を訴え、工場に通えなくなり、そのまま退職してしまつた。それ以降「誰とも会いたくない」と話して、求職活動もなかなかできず自宅でのひきこもり状態の生活になつてついた。</p> <p>久さんが退職して半年後、大工をしていた父親が通勤途中に交通事故にあい大けがをした。父親も右半身に麻痺が残り、仕事ができなくなつた。最初のころは貯蓄で何とか生活していたが、すぐに生活保護となつた。それまで父親が家事などをしていたので、さらに乱雑な状態となり、食事も偏りが見られた。</p> <p>父親から「久の面倒をみていくことができない。何とか施設に入れてもらえないか」と市役所に相談があり、久さんも「お父さんと離れて、自分で生活できるようになりたい」と希望した。久さんは、相談支援センターひまわりで相談支援を受け始め見学等も行う中、「相談しながらやっていきたい」「今は朝も起きられない」「掃除や洗濯、調理もできない」。でも、「いずれ自分のことは自分でできるようになりたい」ので「一人暮らしに向けた準備をしたい」し「すぐに働く自信はないのでそのためには力をつけてほしい」とグループホームを利用しながら、就労継続支援B型事業所に通所することを希望した。</p>

年齢・性別・家族構成・家族状況・現在の居住歴	<p>年齢 22 歳 性別（男性） A市で生まれた。</p> <p>家族構成</p> <p>父： もともとは大工。以前はとても面倒見が良かった。無職。交通事故で右半身に麻痺が残る。何とか自分ことはこなせるが、子どもたちの世話をすることができなくなっていた。久さんの施設入所を考えていたが、久さんの「自立したい」という気持ちを聞いて、久さんには「福祉サービスを利用して自立してほしい」と思っている。</p> <p>母： A市から少し離れたB市に居住。生活保護を受給して一人暮らし。統合失調症の治療中で、久さんとの同居は難しい。年に1~2回久さんと会っている。</p> <p>弟： 5歳下。高校3年生。高校卒業後は就職する予定だが、兄の面倒までは見られないとのこと。</p>
手帳・区分	<p>療育手帳 B 2</p> <p>障害支援区分 3</p>
生活歴及び病歴	<p><b>【生活歴】</b></p> <p>A市で生まれ育つ。初語や歩行は少し遅かったが、特に保健師からの指摘事項はなかった。小学校3年生から情緒支援学級に通学。中学まで支援学級で高校は特別支援学校に通学。好きなこと（木工や昆虫図鑑を見る）は集中して取り組むことができるが、興味がないと席に座っていることができない。また中学・高校は太鼓部に所属し、地域の演奏会などに参加。友達も数人いたが、自分から積極的に作るタイプではなかった。どちらかというと受け身的な性格であり、話かけられるのを待つ方だった。困りごとがあっても相談できない。面倒見の良い人がいると素直になって長続きする。</p> <p>仕事はしたいと思っていたが、またうまくいかないのでないかと思って、求職活動はできずにいた。</p> <p><b>【病歴】</b></p> <p>小学6年の秋に、児童相談所で判定を受け療育手帳を取得。仕事を辞めた後、自宅で引きこもった生活をしていた。生活保護の担当CWの勧めもあり、精神科病院を受診。診断名は知的障害。眠剤と安定剤を1日1回処方されて飲み始めた。受診してからは、夜少し眠れるようになったと話す。（月1回精神科受診）</p>
経済状況	障害基礎年金申請中 補足給付：家賃 10,000 円（申請中）生活保護受給
相談に至る経緯	父親から久の生活の面倒が見られないので施設に入所させたいと市役所に相談。
望んでいる暮らし	<p>久さんの希望は、「父親には世話になったので迷惑をかけたくない」「自分のことは自分でできるようになりたい」「困りごと相談したい」「将来は一人で暮らしたい」と思っているが、「今は朝もなかなか起きられない」し「掃除や洗濯、調理もできない」ことに困っている。そのため、「3年後ぐらいにはまた働きたい」「今は働くことの自信はないので力をつけたい」「1人でコツコツと集中できる作業が好き」「働くときには優しい上司がいるところが良い」と話している。友達がうまく作れることを気にしていて「一緒に遊ぶ友達が欲しい」「昆虫の話ができる友達ができたら最高」と言っている。</p> <p>自分で自立した生活というイメージがまだ持っていないが、周りの人の協力が得られれば、十分地域で生活できると、生活保護の担当者は考えている。</p> <p>久さんは、「3年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」と言っている。</p>
本人の状況と最近の様子	久さんは、こちらから話かけるとボソボソと返答するが、話をするのは好きな様子。久さんからの質問はほとんどない。久さんの見た目は年齢相応の好青年である。ただ生活に困窮しているので、服装には少し汚れが目立っていた。相手の話を「はい、はい」と返事をするので、分かっているように見えるが、なかなか理解はできない様子。
その他	父親の右半身に麻痺が残り、これ以上の回復は望めない状態。 弟は、普通高校に通い、健康状態の問題は特に無い。

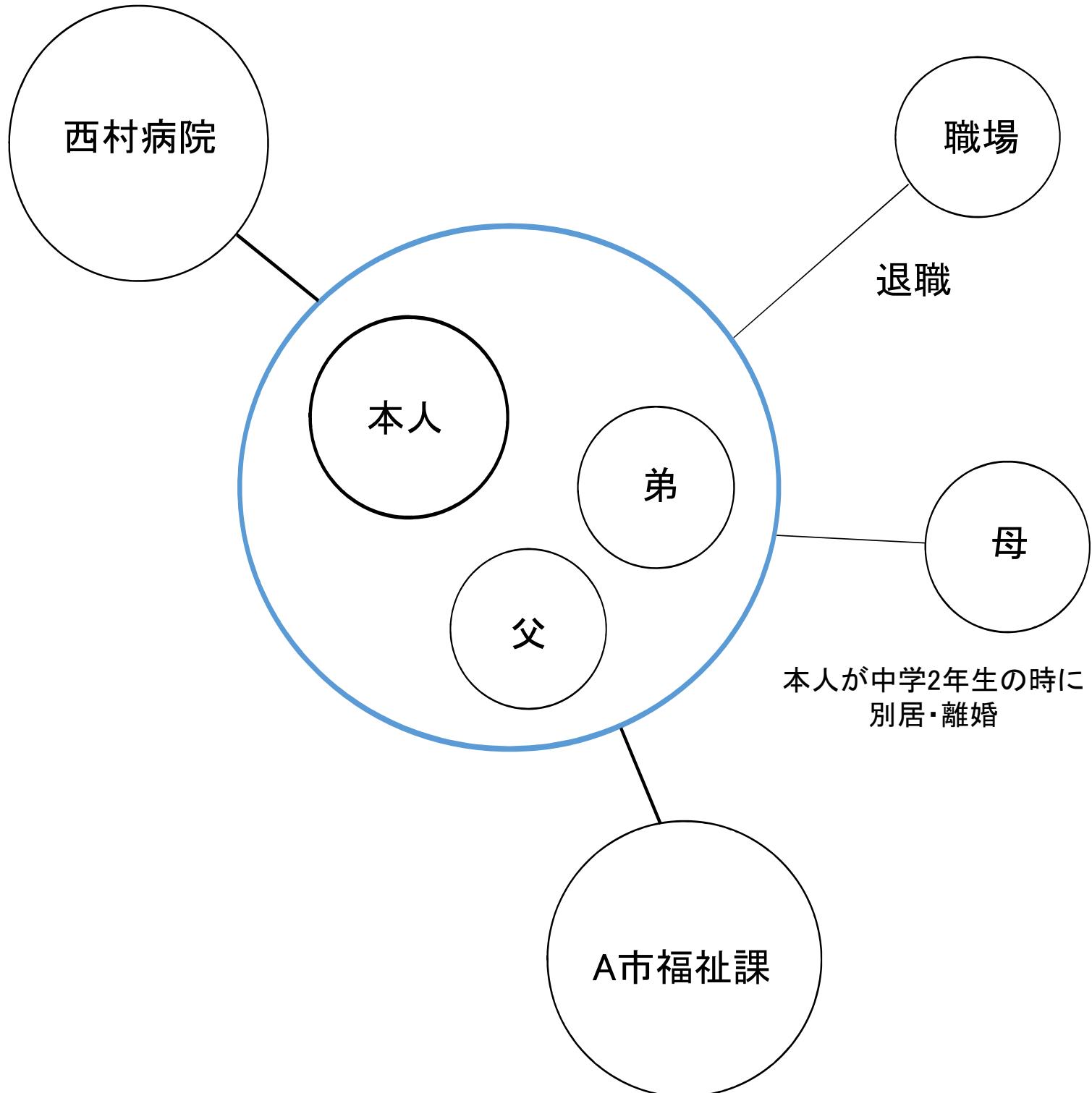
## アセスメント表

記録：相談支援センターひまわり

相談支援専門員：六本木はやと

相談日時	20XX+3 年 6月5日13時～ 15時
氏名等	水道橋久 氏、22歳 男性 知的障害（B2）障害支援区分 3
望んでいる暮らし	<p><b>全体</b>          「父親には世話をしたくて迷惑をかけたくない」          「困りごとは相談したい」          「3年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」</p> <p><b>生活面</b>          「自分のことは自分でできるようになりたい」          「将来は1人で暮らしたい」が「今は朝もなかなか起きられない」し          「掃除や洗濯、調理もできない」          「一緒に遊ぶ友達が欲しい、昆虫の話ができる友達ができたら最高」</p> <p><b>就労面</b>          「3年後ぐらいにはまた働きたい」          「今は働くことの自信はないので力をつけたい」          「1人でコツコツと集中できる作業が好き」          「働くときには優しい上司がいるところが良い」</p>
心身の状況	<p>身長 175 cm 体重 80 キロ</p> <p>特に問題ない。久さんは最近肥満体型になってきているのを気にしている。</p>
精神面の状況	<p>突然怒り出したりすることは、以前に比べれば少なくなってきた。ただ自分のペースを乱されたり、急かされたりするとイライラする感じが見られる。</p> <p>見た目は大人しそう。高校時代の担任の先生は「普段は、穏やかに過ごしていた」「集中している時は、周りの声も耳に入らない」と言っていた。父親を尊敬していて世話をしていたと思っている。</p>
生活の自立度	朝起きるのが苦手で生活リズムがなかなか安定していない。ADLは自立している。家事は手先が器用なので練習すればできるようになるのではないか。やり方や手順について確認する必要がある。
気持ちの自立度	家を離れた暮らしは全く経験したことがないので、始めは戸惑うこともあると思われる。また、自分の思い通りにならないと、他の方とトラブルになる可能性もあるので、イライラしそうなときには早めに職員に伝えられるとよい。
服薬状況	夜、寝る前の処方のみ。自分で薬の管理ができるように練習している。
経済状況	<p><b>【収入面】 生活保護</b></p> <p><b>【支出面】 グループホームの費用</b>          家賃 30,000円（家賃補助 10,000円） 食費 20,000円 光熱水費15,000円          日用品費 3,000円 生活費（おこづかい） 20,000円</p> <p>金銭管理は、仕訳を手伝えばその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物（菓子・ケーキなど）買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。</p>
趣味	昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。菓子・ケーキ等の買い物など
キーパーソン	父親。交通事故で右半身に麻痺があり自分のことで精一杯な様子
家族	<p>父方母方の祖父母について</p> <p>父方の祖母は県外（遠方）にいるが、母方の祖父母は他界している。          両親と暮らしていたころは、年1回は家族で父方祖父母に会いに行っていた。</p>
就労	手先が器用で興味をもつと集中できる。また、面倒見がいい人の話は素直に聞くことができる。しかし、以前の工場での仕事の経験から「人に会うのが怖い」「また注意されるのが心配」と不安感を述べる。「1人でコツコツと集中できる作業が好き」「働くときには優しい上司がいるところが良い」「3年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」といざれしっかり働きたいという意欲はある。移動手段は、徒歩。公共交通機関は、これまでほとんど利用したことがないが、練習次第では利用できそうである。

20XX年 9月



作業を通して経験を増やす

20XX+3年 6月

1人暮らしに向けた準備をする

グループホーム  
ピアハウス

ホーム  
サビ管

世話人

就労センタースマイル

B型サビ管

生活支援員

職場

退職

弟

父

西村病院

退職後通院

本人が中学2年生の時に  
別居・離婚

相談支援センターひまわり

相談員

A市福祉課

父より相談を受け  
相談支援センターを紹介

本人・父の希望を聞き取りサービス調整

## 02 アセスメントシート

氏名 水道橋 久

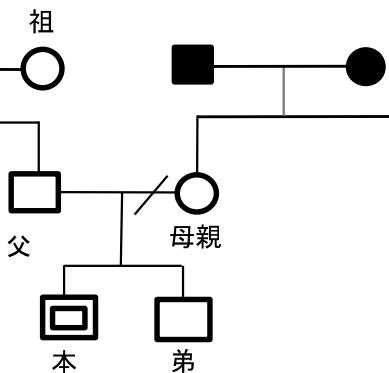
記入 相談支援専門員 六本木はやと

	項目	介助がいるか	程度			介助がいるか	程度	
日常生活面	起居動作	起き上がり	<input type="checkbox"/> 有	衛生保持	手洗い	<input type="checkbox"/> 有		
		寝返り	<input type="checkbox"/> 有		爪切り	<input type="checkbox"/> 有		
	姿勢保持	座位	<input type="checkbox"/> 有	耳掃除	<input type="checkbox"/> 有			
		立位	<input type="checkbox"/> 有	月経	<input type="checkbox"/> 有			
	移動	屋内	<input type="checkbox"/> 有	行排動泄	排尿	<input type="checkbox"/> 有		
		屋外(徒歩)	<input type="checkbox"/> 有		排便	<input type="checkbox"/> 有		
	衣類着脱	着脱行為	<input type="checkbox"/> 有	食事全般	飲食行為	<input type="checkbox"/> 有		
		服装の選択	<input type="checkbox"/> 有		食事状況	<input type="checkbox"/> 有		
	整容行為	歯磨き	<input type="checkbox"/> 有	食事の後片付け	<input type="checkbox"/> 有			
		洗顔	<input type="checkbox"/> 有	家事全般	調理	<input checked="" type="checkbox"/> 有	やったことがないので支援が必要	
		整髪	<input type="checkbox"/> 有		安全確認	<input checked="" type="checkbox"/> 有	やったことがないので支援が必要	
		ひげ剃り	<input type="checkbox"/> 有		入浴の準備と片づけ	<input type="checkbox"/> 有		
		化粧	<input type="checkbox"/> 有		入浴	<input type="checkbox"/> 有		
	<b>特記事項</b>							
	父親がある程度身の回りのこと(調理、洗濯、掃除など)はやってくれていた。久さんは、積極的に身だしなみを整えたり、片づけたりすることも苦手だが、声掛けがあればなんとか自分で行える。物が多く、部屋に服や小物類が溜まってしまう。日常生活でやらなければならないことの優先順位がつけられない。家事をやった経験がないが、援助があればできるようになると予測できる(今までの生活の様子から、父親が予測)。朝起きるのが苦手なので、就労継続支援B型の事業所に通う時には遅刻が頻回になることが心配される。							
コミュニケーション	困ったときに相談しているところ		生活上の支援機関、支援者など					
	相談支援センター「ひまわり」 就労センター「スマイル」 グループホーム「ピアハウス」 西村病院(内科・精神科)		…サービス等利用計画作成 相談支援 …利用予定の就労継続支援B型 …利用予定のグループホーム …外来通院先					
<b>意思の表現方法</b> 言葉でのコミュニケーションが十分できる。最初の上司が仕事を教えていた時は、時間がかかるが分かるまで教えてくれたので、本人も安心して仕事ができていた。手順が分かれれば、呑み込みが早い。ただ自分から積極的に質問するタイプではなく、困ったことや心配なことがあっても自ら相談することができなかつた。周りの人は分かっていると思って仕事をすすめてしまうので、本人は分からずに少しパニックになってしまったことがあった。								
社会参加・活動	<b>好きなこと</b> 昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。買い物やゲームなど							
	<b>嫌いなこと</b> 怖そうな人・すぐに怒りそうな人 <b>移動の方法</b> 徒歩 これまで公共交通機関を利用する機会はなかったが、練習すれば利用できそう							
家庭生活	グループホームで生活する予定							
	家庭での主な介護者 父親		介護者の状況		もともとは大工。交通事故で左半身に麻痺が残り、自分のことをこなすことで精一杯な状況。			
経済状況	主な生活財源		生活保護受給中。					
	就労による収入		0円／月		預貯金		0円	
<input checked="" type="checkbox"/> 基礎年金申請中 <input type="checkbox"/> 障害者特別手当 <input type="checkbox"/> その他 金銭管理は、仕訳を手伝えばその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物(菓子・ケーキなど)買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。								

項目	介助がいるか	程度	特記事項
行動面での障害1	こだわり行動	<input checked="" type="checkbox"/> 有	自分の手順があり、変更されるとパニックになる
	徘徊	<input type="checkbox"/> 有	
	無断外出	<input type="checkbox"/> 有	
	無断外泊	<input type="checkbox"/> 有	
	錯覚・幻視・幻聴	<input type="checkbox"/> 有	
	被害妄想	<input checked="" type="checkbox"/> 有	近所の人たちからバカにされていると思っている。
	自殺願望・企画	<input type="checkbox"/> 有	
	不潔行為	<input checked="" type="checkbox"/> 有	声掛けがあれば身だしなみを整えるが、放っておかれると着替えたりできない。
	異食行為	<input type="checkbox"/> 有	
	収集癖	<input type="checkbox"/> 有	
行動面での障害2	物忘れ	<input type="checkbox"/> 有	
	反社会的行為 (盗撮、虚言など)	<input type="checkbox"/> 有	
	自傷行為	<input type="checkbox"/> 有	
	他者に対する粗暴行為	<input type="checkbox"/> 有	
	器物に対する粗暴行為	<input type="checkbox"/> 有	
	奇声や騒がしさ	<input type="checkbox"/> 有	
	パニック	<input checked="" type="checkbox"/> 有	物事の進め方がわからないと起きる。
	多動・行動の停止	<input type="checkbox"/> 有	
	思考障害	<input type="checkbox"/> 有	
	感情不安定	<input checked="" type="checkbox"/> 有	困ってしまうと感情も不安定になる。
考の障害	過大・過小評価	<input type="checkbox"/> 有	

### 《その他》

主治医からは、薬は軽いものなので、生活が安定し、精神的に安定すればいずれ必要がなくなるかもしれない。本人が困っている時に、周りが気づける関係性ができると、これ以上の薬の必要性はないと言う。そのためには生活の場でのサポート体制は欠かせない。SOSを出す力をつけられると思っている。



### 03 学習期の情報

\* 以下の情報は、担当の相談支援専門員が水道橋久さんの過去のことを知る関係者を探し、情報を得たものである。

小学6年生の時に受けた児童相談所における判定状況	IQ68といった記録はあるが、詳しいデータは不明。
中学校時代の太鼓部の顧問の先生からの情報	中学一年の頃は、よくしゃべる子だった。張り切って何でもやりたがる子だった。幼い頃は、よく動き回る子だったと母親から聞いたことがある。
放課後等デイサービス(中学2年生から高等部3年生まで利用。高3の頃の様子を知る、事業所の児発管からの情報)	事業所A：放課後に来所すると、仲の良い友達とは談笑したり一緒に図鑑を見たりして過ごしていた。時折、話が盛り上がって声が大きくなることもあったが、基本的には相手から聞かれたことに答えるやり取りが多かった。自分から友達を誘うよりは、友達に誘われて一緒に行動していた。土曜日の課外活動にも参加しており、外出プログラムでは仲の良い友達と虫探しをすることもあったが、職員について一緒に行動することが多かった。自分で行動することに自信がないように感じられた。
支援学校高等部の元担任からの情報	<p>卒業後、就職してからしばらくは職場に様子を見に行ったり話を聞いたりしていた。その後、退職したと聞いて気にはしていたが、どうしているのかわからなかった。成人式の集まりにも顔を出さなかつたので心配していた。</p> <p><b>高等部時代のこと：</b>  <b>日付、時刻</b> → よく理解できている。</p> <p><b>数、数量</b> → 計算には時間はかかるが、二桁までの加減は大体良好。三桁になると難しい。買い物の時には、大きな金額の札で支払い、お釣りをもらっていた。</p> <p><b>書字</b> → もともと筆圧は弱かったが、漢字検定に興味をもち、少しずつ上達していった。筆順もはじめは自分なりの書き方だったが、卒業時には大体正しい順に書けるようになった。</p> <p><b>読み</b> → 一、二行の文章はわりとすんなりと読むことができていた。読み違い(勝手読み)は目立っているが、難しい漢字でも知っているところがあった。</p> <p><b>聞き取り</b> → 一対一での指示は入っていくが、集団における指示はほとんど入らない。特に周囲で誰かが話しているとその話にも気をとられてしまう。三人以上で話し合うことはかなりストレスになる。早合点してしまうことも目立つ。</p> <p><b>話すこと</b> → 慣れた相手だと、早口になる。筋道の通った話をするのが難しく、何が言いたいのか周りに伝わりにくいことがある。</p> <p><b>比較・推測すること</b> → 予想することは苦手。どうすればいいのかを考えて、自分の考えを述べることも難しい。自分の意思を言葉で表すことはできるが、誰かに言われたことをまねているだけのことが多い。</p> <p><b>～指導上の留意点について～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 同じような内容のことについても、理解できているときとそうでないときの差が大きい。特に集団の場面では、話したことが届かないことは多かった。</li> <li>② 自分でできないときになかなかヘルプコールが出せない。</li> <li>③ 教えられたことを忠実にやろうとするが、思った通りにならないと、何か理由をつけてやっていることを止めてしまうことがあった。</li> <li>④ 人に認められたい気持ちはとても強く持っており、虚勢を張ってしまうところが度々見られた。</li> <li>⑤ なかなか伝えたことが身につかないときに、繰り返していねいに声をかけていくと腹を立ててしまうことがあった。</li> </ul> <p><b>～支援目標を達成していく上で効果が認められたこと～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 作業していく内容については、他の生徒がいない教室で、担任と一対一で見本を示しながら教示していくと、5~6工程の内容でも対応できることは多かった。</li> <li>② やるべきことについての内容とその手順は、料理のレシピのように、写真を添えて文章で示すと、自分で確認しながら取り組めることが多くなった。</li> </ul>

## 配付資料 06-01 サービス等利用計画(案)

利用者氏名	水道橋 久さん	障害支援区分	区分3	相談支援事業者名	相談支援センターひまわり	
障害福祉サービス受給者証番号	000XXXX###	利用者負担上限額	0	計画作成担当者	六本木はやと	
地域相談支援受給者証番号	000XXXX???	通所受給者証番号	000XXXXXXX			
計画作成日	20×× +3年 6月 5日	モニタリング期間(開始年月)	20×× +3年 8月	利用者同意署名欄		
久さんは、特別支援学校の高等部卒業後一般企業で働いていたが、「上司の注意が怖い。仕事に集中できない」と言って退職した後はひきこもりがちな生活をしていた。昨年、父親が交通事故で右半身に後遺症が残り、久さんの面倒を見られなくなってしまった。久さんは、「父親に世話になつたので迷惑をかけたくない」「3年後には普通に仕事をして立派な人にになりたい」「自分の事は自分でできるようになりたい」という希望を持っている。また、「今は朝も起きられない」「働く自信がない」のでそのための「準備をしたい」と思っている。また、「困りごとは相談したい」と言う気持ちがあり、一人暮らしに向けた準備をするためのグループホームの利用と就労継続支援B型の通所を希望している。また、「昆虫の話ができる友達がほしい」と思っている。父親は「私も体が不自由になつてしまい久の面倒はみられません。久には福祉サービスを利用して自立してほしい」と言っている。						
利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)						
総合的な援助の方針						
長期目標						
短期目標						
グループホームでは生活上の様々な経験を積み、就労継続支援B型では、仕事を継続するたためのコツを身につけて自信をつける。また、生活上のことを相談できる力をつけることや、生活上の楽しみをみつけることで、「自分ることは自分でできるようになる」という目標が達成できるよう支援する。						
① グループホームでは、掃除や洗濯、調理等の生活していく上での力をつける。 ② 就労継続支援B型事業所では、仕事を続ける力をつけられる。 ③ 相談する力をつける。 ④ この間に見つけた昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみを継続する。						
① グループホームの日常生活に慣れる。 ② 就労継続支援B型事業所の作業に慣れる。 ③ わからないことや困っていることを相談する。 ④ 昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて相談する。						
優先順位	解決すべき課題 (本人のニーズ)	支援目標	達成時期	課題解決のための 種類・内容・量(頻度・時間)	評価 本人の役割	その他留意事項
1	グループホームで一人暮らしに向けた準備をしたい。	グループホームの生活に慣れて、掃除や洗濯、調理等自分でできる事を増やす。	12ヶ月	グループホーム 毎日	スケジュールを覚えて生活リズムを身に着ける。 掃除や洗濯、調理の仕方は、世人さんに教えてもらいます。	*朝なかなか起きることができない
1	今は働くことに自信がないのでそのための力をつけたい。	いろいろな作業経験を積んで得意なことを見つける。	12ヶ月	就労継続支援B型 月～金	就労継続支援事業での作業を通して経験を増やします。	*朝なかなか起きることができない
3	困りごとは相談したい。	生活のこと、仕事のことで困ったり、不安だったりしたことなどを相談できるようになる。	6ヶ月	グループホーム 毎日 就労継続支援B型 月～金 相談支援事業所 隨時 病院 4週間に1回 土曜	グループホームで一日の出来事を報告します。 仕事については、就労継続支援事業所で相談します。 服薬をして定期的に通院します。	1ヶ月
4	楽しみをみつけたい。 樂しみをみつけたい。	昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話を聴きます。	6ヶ月	グループホーム 就労継続支援B型 相談支援事業所	昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話を聴かせてください。	3ヶ月